

「千葉県立図書館の今後の在り方」行動計画

平成27年度実施状況

I	市町村立図書館充実のための支援強化	(目次)
1	県内図書館ネットワークの中核的機能の強化	p 1
2	新しい図書館サービス実施のための職員研修プログラムの開発・実施	p 3
II	未来を担う子どもの読書活動の推進	
1	子どもの読書活動推進センター機能の強化	p 5
2	学校図書館との連携・支援	p 6
III	県民の役に立つ資料・情報提供サービスの普及	
1	県民の課題解決に対する支援	p 9
2	高齢者・障害者サービス等	p 12
IV	千葉県に関する資料や情報の蓄積、継承	
1	千葉県関係資料の網羅的収集、提供、保存	p 14
2	関係機関と連携した地域デジタル情報の収集・発信	p 17
V	社会の変化に対応した図書館サービスの推進	
1	ITを活用したハイブリッド図書館の整備	p 18
2	県民に開かれた図書館経営	p 19
VI	今後の図書館経営・施設整備の方向性	p 20

平成28年7月

千葉県立図書館

I 市町村立図書館充実のための支援強化

住民の生涯学習と地域の発展を支える情報拠点としての機能を十二分に発揮し、充実した図書館サービスが行えるよう市町村立図書館を支援する。（※白抜き○番号[●等]は最重点事業。目標数値は3年間の平均値または累積数）

1 県内図書館ネットワークの中核的機能の強化

【重点事業①】 資料搬送ネットワークの維持・改善

○現在の資料搬送ネットワークを継続するとともに課題について検討し、現状よりも多くの施設に、市町村で収集し難い資料収集を含め、迅速な資料提供ができるようにする。

<年度別>25～26年度 図書館実態調査の実施（他都道府県、県内市町村）

27～28年度 調査結果の分析・対応検討 3館）課題への対応策の検討（継続）

【平成27年度 進捗・成果】

平成26年度県内公共図書館等に実施した調査及び平成22年度全国公共図書館協議会調査（都道府県立図書館状況）により、改善策の検討を進めた。現時点では、迅速・確実な相互貸借システムの維持、県民への更なる周知・広報を当面の改善策とし、迅速なレファレンス・的確な配送等により、相互貸借システムの有用性の確保とともに、様々な機会を捉えてのPRに努めた。

数 値 項 目	基本数値 24年度	目標数値 27年度	25年度	26年度	27年度	平均 25-27年度
A 県立図書館蔵書貸出冊数	冊 90,226	平均 冊 91,500	冊 89,984	冊 93,615	冊 107,022	冊 96,874
B 市町村立図書館等読書施設蔵書貸出冊数	冊 94,615	平均 冊 96,000	冊 94,493	冊 98,542	冊 98,506	冊 96,301

【重点事業②】 情報検索ネットワークシステム（横断検索システム）の維持・改善

・次期システムの更新に向けて更なる対象館の拡大とシステムの改良を行う。

<年度別>25年度～ 次期システムの検討、26年度 県内図書館アンケート調査実施

27年度 調査結果分析 中央）県内アンケート調査の分析、課題整理

3館）ワーキンググループによる次期システムの検討（継続）

【平成27年度 進捗・成果】

3館）次期電算システムの開発に向けて、情報システム課の開発支援を受け、システム導入企画書を作成、情報提供依頼（RFI）を実施したが、予算措置がかなり困難な見込であるため、機器のみ入替とその差額を使つての改修の見積を行う。

数 値 項 目	基本数値	目標数値	25年度	26年度	27年度	平均 25-27年度
	24年度	27年度				
C 利用者アンケート満足度調査 総合満足度	%	平均 以上				
	74.3	75%	76.3%	79.5%	78.7%	78.2%
うち資料検索機、インターネット等パソコン利用の満足度【他の項目はV-2参照】	66%	—	73%	77%	78%	76%

【重点事業③】 県内大学図書館、類縁機関とのネットワークづくりを推進

○大学図書館については、千葉県立図書館横断検索への参加や相互貸借など、一層の連携や充実を図る。

○類縁機関については、県の機関を中心に連携を推進し、千葉県関係資料のデータベースの一層の充実を図る。

<年度別> 25~28年度 大学図書館、類縁機関と連携について協議

3館) 連携の在り方について検討(継続)

【平成27年度 進捗・成果】

3館) 連携の在り方について検討(連携事業の実施)

県立中央博物館、県民プラザとの意見交換会を1回開催し、連携事業状況を確認しながら、今後の連携について意見交換を行った。

また、中央博物館が文化庁の補助を得て前年度から開始した「博物館・図書館・公民館との連携による地域文化発信事業」の一環として実施している「もののけ」関連事業への支援・協力を行っている。

<大学図書館、類縁機関との連携事業> [※人数は参加者数を示す(以降同様)]

3館) 県内の大学及び類縁機関と連携し、資料の相互貸借や研修事業を行った。

大学への貸出(677冊)及び借受(28冊)、類縁機関への貸出(215冊)

中央) 中央博物館連携事業 妖怪のおはなし読み聞かせ(会場:中央博物館)7月19日、8月9日、8月30日(各2回)、延べ181人

博図公連携事業 妖怪のおはなし読み聞かせ(会場:千葉そごう)6月13日(2回)、延べ50人

企画展示「教えて!図鑑さん!」関連校外学習セミナー(講師:中央博物館)1月15日、213人

//

関連講座(講師:中央博物館)1月16日、39人

西部)「サイエンス・カフェ① いきもの編」(講師:中央博物館)8月8日、28人

「自然科学講座『日本の火山活動の特徴』(講師:中央博物館)10月17日、33人

「サイエンス・カフェ② 科学技術編」(講師:現代産業科学館)10月31日、23人

東部)「歴史講座 妖怪と出会う夏 ー千葉の妖怪・江戸の妖怪」(講師:中央博物館)

9月5日、40人

「千葉経済短期大学部との連携研修会」(講師:千葉経済短期大学部)2月26日、26人

2 新しい図書館サービス実施のための職員研修プログラムの開発・実施

【重点事業①】 図書館研修センターとしての機能強化

○運営支援の一環として、全ての県内図書館等読書施設の職員が、図書館サービス向上のための研修を受けられるよう、千葉県公共図書館協会と連携した研修プログラムの開発を行う。

<年度別>25～26年度 県内図書館アンケート調査（検討・実施・分析）

3館）県内アンケート調査結果の分析、課題整理

27～28年度 研修プログラムの検討 3館）研修プログラムの検討

【平成27年度 進捗・成果】

3館）前年度より、参加者の移動負担を軽減するため、新任職員研修を県立3館で分散開催した。

また、話題・課題性の高い研修内容を選び実施した。今後も課題把握や情報収集を積極的に行い、研修プログラムの検討を進める。

数 値 項 目	基本数値	目標数値	25年度	26年度	27年度	平均 25-27年度
	24年度	27年度				
D 研修会の参加者数及び満足度 (参加者数)	人	平均 人	人	人	人	人
	656	660	662	681	655	666
(満足度)	未調査	平均 以上	%	%	%	%
		70%	89.6	91.5	91.1	90.7

<研修会（実施状況）> 19回開催（図書館等読書施設職員 延べ655人）

中央）「新任職員研修会」5月13日、68人、満足度83.0%

「中堅職員研修会」10月7日、27人、満足度76.9%

「地域行政資料研修会」7月17日、23人、満足度82.6%

「児童サービス研修会（全5回）」第1回6月18日、第2回6月25日、第3回7月9日

第4回・第5回10月8日、延べ240人、満足度89.2%

「レファレンス研修会〔基礎研修〕」6月19日、55人、満足度96.2%

「レファレンス研修会〔専門研修〕」10月30日、28人、満足度92.9%

「課題解決支援サービス研修会（千葉県の地震災害）」10月21日、19人、満足度73.3%

西部）「新任職員研修会」5月27日、21人、満足度92.9%

「障害者サービス研修会 第1回」6月26日、29人（うち図書館等職員26人）、満足度89.5%

「課題解決支援サービス研修会 第1回」（課題解決のための図書館コレクション）9月16日、34人、満足度96.7%

「課題解決支援サービス研修会 第2回」（図書館資料の保存）10月9日：20人、満足度95.0%

「障害者サービス研修会 第2回」11月27日、22人（うち図書館等職員20人）、満足度100.0%

東部）「新任職員研修会」5月22日、19人、満足度89.4%

「課題解決支援サービス研修会（小さな街の図書館でできること）」10月28日、24人、満足度95.2%

「千葉経済大学短期大学部との連携研修会」2月26日、26人、満足度93.5%

Ⅱ 未来を担う子どもの読書活動の推進

県内公立図書館のセンター館として、家庭、市町村立図書館、学校等における子どもの読書活動やこれに携わる人や機関等との連携協力の推進を図る。

1 子どもの読書活動推進センター館機能の強化

【重点事業①】 児童サービス職員研修会の開催、運営相談の実施

- 市町村立図書館等読書施設でも対応できるよう児童サービス担当職を育成する。
- 研修プログラム等の見直しを図る。

<年度別>25～26年度 県内図書館アンケート調査の実施
 3館) 県内アンケート調査結果の分析、課題整理
 27年度 事業内容の検討 中央) 事業内容の検討(済)

【平成27年度 進捗・成果】

中央) 市町村立図書館等職員向け研修会を5回開催延べ240人参加、満足度は89.2%であった。
 研修会は、前年度より受講しやすいよう、年度をまたいでも分割受講できるようにしている。

数 値 項 目	基本数値	目標数値	25年度	26年度	27年度	平均 25-27年度
	24年度	27年度				
D' 研修会の参加者数及び満足度 I-2-①の数値項目のうち児童サービス研修会 [参考項目]	人	平均 人	人	人	人	人
	204	—	243	256	240	246
	未調査	平均 以上	%	%	%	%
		—	94.1	90.4	89.2	91.2
E 児童サービス研修会開催回数	回	平均 回	回	回	回	回
	4	5	5	5	5	5

中央) 「児童サービス研修会(全5回)」 延べ240人、満足度89.2%

- 第1回 (児童奉仕概要) 6月18日、46人、満足度91.4%
 - 第2回 (絵本・物語について) 6月25日、43人、満足度90.7%
 - 第3回 (おはなし会の運営、ノンフィクションの選書) 7月9日、43人、満足度90.5%
 - 第4回 (レファレンスサービス) 10月8日(午前) 40人、満足度86.1%
 - 第5回 (講演会) 10月8日(午後) 68人、満足度87.1%
- 演題「石井桃子の翻訳はなぜ子どもをひきつけるのか—声を訳す文体の秘密」
 講師 フェリス女学院大学非常勤講師 竹内美紀氏

【重点事業②】 家庭における読書活動の推進

- 講座プログラム等事業の見直しを図り、地域のボランティアとして活動できるよう支援する。
- 乳幼児・児童などの保護者等への課題解決支援サービスを検討、実施する。

<年度別>25年度～ 事業内容の再検討と実施
 中央) 子育て支援情報コーナーの充実(継続)、図書館ボランティア育成(継続)
 27年度 新講座プログラムの実施 中央) 読み聞かせボランティア入門講座実施(新規)

【平成27年度 進捗・成果】

中央) 県民が子ども読書活動における地域ボランティアとして活動できるよう「子ども読書の日記念読み聞かせボランティア入門講座」を5月1日に県立中央図書館で開催し52人参加、1月22日に長柄町公民館で開催し45人の参加を得た。

数 値 項 目	基本数値	目標数値	25年度	26年度	27年度	平均 25-27年度
	24年度	27年度				
F 図書館ボランティアの育成者数	人 65	平均 人 70	人 74	人 87	人 97	人 86

【重点事業③】 ヤング・アダルトサービスの開発

- 10代の若者に対して進路や就職など必要な資料情報活用のための支援を行う。
- 10代に出会う多様なテーマや生き方を、読書を通じて支援していく。

<年度別>26~27年度 サービス計画立案・策定 【27年度~】中央) 図書館実態調査分析

【平成27年度 進捗・成果】

中央) 高校へのレファレンス提供済み資料リストを20件作成し、県立3館で情報共有化を図った。
ヤング・アダルトサービスに関する調査については、平成26年8月に日本図書館研究会調査結果を基に活用方法について検討を進めている。

数 値 項 目	基本数値	目標数値	25年度	26年度	27年度	平均/累計 25-27年度
	24年度	27年度				
G 児童書の貸出冊数 <児童資料室(中央)>	冊 37,661	平均 冊 40,000	冊 38,382	冊 40,176	冊 39,926	平均 冊 39,495
H 子ども読書支援関係のテーマ別リスト 作成件数	件 22	累計 件 70	件 25	件 35	件 25	累計 件 85

※電算上ヤングアダルト世代(13歳から18歳)への貸出冊数の統計は取れない。

※児童書の貸出冊数=個人貸出冊数(中央)+協力貸出冊数(3館)

<テーマ別リストの主な内容> 「現代の食生活の問題」、「就活」、「環境問題、保健衛生」など

2 学校図書館との連携・支援

【重点事業①】 学校向けの貸出用資料の整備

- 高等学校からの要望も取り入れながら、新規のテーマや既存のセットに新刊図書を組み入れる等、授業で利用できる資料整備を推進していく。

<年度別>25~29年度 学校用セットの整備、25~26年度 学校図書館へのアンケート調査の実施
中央) 校長会・教員研修会等でのPR(継続)、資料整備(継続) [アンケート25年度実施]
西部) 【25年度~】特別支援学校への訪問読書支援(継続)

【平成27年度 進捗・成果】

中央) 校長会や司書の会議に加え、実際授業等で指導を行う教員の会議(総合教育センター高校5年、10年経験者研修)でのPRを行った。また、今年度から小中学校への支援にも光を当て、教職員向け雑誌でのPR、地区の教育研究集会に出向いてのPRを行った。

「高等学校・特別支援学校用セット」利用実績 延べ69校192セット

西部) 特別支援学校への訪問読書支援の実施(西部管内の県立校へ事前調査、希望校中7校へ訪問)

ア 読み聞かせ: 我孫子、つくし、船橋夏見、船橋、市川、松戸、柏 特別支援学校

イ 運営相談: 訪問読書支援の際に本年度より開始した宅配便の紹介をするとともに、短時間の運営相談を実施。

東部) 第3地区図書主任及び学校図書館司書合同総会及び研究会、東総地区高等学校図書委員連絡協議会研究会での広報。県内高等学校・特別支援学校・大学への運営相談(計44回)、運営相談時に広報パンフレットの配布を行った。

・学校図書館運営研修会(学校図書館担当者を対象に授業のための情報検索)実施、11人参加

数 値 項 目	基本数値	目標数値	25年度	26年度	27年度	平均
	24年度	27年度				25-27年度
I 県立学校等への資料貸出冊数	冊	平均 冊	冊	冊	冊	冊
	13,555	15,000	15,584	17,572	23,061	18,739

【重点事業②】 物流ネットワークの整備

○現在の資料搬送ネットワークを継続するとともに課題について検討し、現状よりも多くの学校に、迅速な資料提供ができるよう効率的なネットワークを整備する。

<年度別>25~26年度 学校図書館へのアンケート調査の実施 [アンケート25年度実施]

27~28年度 物流ネットワークの再構築

西部) 管内協力車未巡回高等学校等への宅配サービス開始(27年7月より)

【平成27年度 進捗・成果】

3館) 高等学校等の求めに応じて、中央は宅配、東部は協力車巡回による資料搬送を行った。西部は協力車巡回とともに、27年度新規事業として管内協力車未巡回校への宅配サービスを開始した。

中央) 利用校を増やすため、校長会や司書の会議でのPR等(前出II-2参照)を行った。

数 値 項 目	基本数値	目標数値	25年度	26年度	27年度	平均
	24年度	27年度				25-27年度
I 県立学校等への資料貸出冊数 【再掲 II-2-①】	冊	平均 冊	冊	冊	冊	冊
	13,555	15,000	15,584	17,572	23,061	18,739

【重点事業③】 小・中学校図書館との連携・支援

- 事業内容を再検討し、研修会の実施や講師の派遣など事業の充実を図る。特に図書館未設置市町村の学校図書館への支援方法等を検討し、実施していく。
- 児童・生徒が抱える課題解決支援サービスを検討し、資料・情報を提供する。

＜年度別＞25年度～ 事業内容の再検討と実施

- 25～27年度 図書館未設置市町村読書施設の実態調査と支援方法再検討
- 3館) 研修会の実施や講師の派遣（継続）、近隣小中学生の職場体験受入（継続）
- 3館) 県内アンケート調査結果の分析、課題整理（済）

【平成27年度 進捗・成果】

3館) 通年 近隣小中学生の職場体験受入

(中央: 中-3校12人、西部: 中-3校12人、東部: 小-2校3人、中-7校16人)

小・中学校図書館には、調査相談や市町村立図書館等を通しての資料貸出しを行った。

中央) 市町村教育委員会主催の研修会に職員を1名派遣し、絵本の読み聞かせを指導した。また、企画展示「教えて! 図鑑さん!」の関連行事として、近隣中学校1年生(2校)対象の校外学習セミナーを実施した。

数 値 項 目	基本数値	目標数値	25年度	26年度	27年度	平均
	24年度	27年度				25-27年度
J 教職員等に対する研修会開催回数 及び講師派遣件数 (開催)	回	平均 回	回	回	回	回
	2	2	2	1	2	2
(派遣)	件	平均 件	件	件	件	件
	13	14	8	9	13	10

＜研修会開催（実施状況）＞ 2件

中央) さわやか県民プラザ 読み聞かせ朗読講座（共催）2人

東部) 学校図書館運営研修会：学校図書館担当者を対象に授業のための情報検索 11人

＜講師派遣（実施状況）＞ 13件

中央) 学校図書館司書補助員研修会（君津市教育委員会主催）、読書指導研修会（袖ヶ浦市教育委員会主催）、千葉県高等学校教育研究会学校図書館部会総会、千葉県教育研究会学校図書館教育部会総会、公立学校図書館と学校連携を図るための研修会、平成27年度千葉県子ども読書の集い、県立学校等5年経験者研修、10年経験者研修、第59次夷隅教育研究集会、第65次長生教育研究集会、千葉県高等学校教育研究会図書館部会第6地区司書の会 各1人（計11人）

西部) 平成27年度公立図書館と学校の連携を図るための研修会 1人

東部) 千葉県高等学校教育研究会学校図書館部会研修会 1人

Ⅲ 県民の役に立つ資料・情報提供サービスの普及

県民や地域、行政が抱えている法律、医療・福祉の問題、まちづくりなどの課題を解決するための調査研究支援を先導して行うとともに、市町村立図書館等への普及を図る。

1 県民の課題解決に対する支援

【重点事業①】 課題解決支援サービスの実施及び市町村立図書館への普及

○県立3館の研修内容を精査し、千葉県公共図書館協会とも連携して開催する等市町村立図書館への普及を推進する。

○地域の課題に対応した課題解決支援サービスのサービス計画の立案を支援するため、市町村立図書館等の相談に応じる。

<年度別>25年度～ 市町村立図書館主体の課題解決講座始業の相談対応開始

25～26年度 事業内容の検証

3館) 課題解決支援サービス研修会開催(継続)、課題解決支援サービス研修会開催時でのアンケート調査(継続)

27～29年度 研修会のプログラム再編 3館) 研修会のプログラム再編(継続)

【平成27年度 進捗・成果】

3館) 3館の特色を生かした課題解決支援サービス研修会を4回実施、図書館等職員97人が参加、研修会開催時アンケート調査での満足度は90.1%であった。また、県民向けの講座を9回開催し延べ253人の参加を得た。

<課題解決サービス支援研修会(実施状況・内容)> 4回(97人、満足度90.1%)

中央)「千葉県の地震災害」10月21日、19人、満足度73.3%

西部) 第1回「課題解決のための図書館コレクション」9月16日、34人、満足度96.7%

第2回「図書館資料の保存」10月9日、20人、満足度95.0%

東部)「小さなまちの図書館でできること」10月28日、24人、満足度95.2%

<課題解決サービス関連講座(実施状況)> 9回(延べ253人)

中央)「暮らしに役立つ法律・判例情報講座(全2回)」7月5日、延べ42人、満足度88.2%

第1回: 午前の部(データベース)11人、第2回: 午後の部(成年後見)31人

「データベース活用講座(ヨミダス歴史館活用講座)」8月22日、12人、満足度83.3%

西部)「自然科学講座」10月17日、33人、満足度87.0%

「健康・医療情報講座」11月28日、30人、満足度97.0%

「生涯現役実現セミナー」12月4日、30人、満足度76.0%

「困りごと解決講座」1月31日、35人、満足度70.6%

東部)「はつらっライフ講座 物忘れと認知症」10月10日、41人、満足度93.0%

「地域づくり支援講座」1月30日、30人、満足度90.0%

<参考項目>

数 値 項 目	基本数値	目標数値	25年度	26年度	27年度	平均
	24年度	27年度				25-27年度
D' 研修会の参加者数及び満足度	人	平均 人	人	人	人	人
I-2-①の数値項目のうち (参加者数)	80	—	104	114	97	105
課題解決支援サービス研修会 (満足度)	未調査	平均 以上	%	%	%	%
		—	87.5	88.4	90.7	88.9

【重点事業②】 レファレンス事例集紹介、調べ方案内、リンク集の作成

- 利用者ニーズを把握し、作成件数を増加しながら、既存のものについても常に最新のものに更新していく。
- 作成にあたっては、県行政機関の広報活動支援の一助となるよう各機関が発信する情報の収集及び提供に努める。

<年度別>25～29年度 利用者ニーズの把握・検討、データの新規作成及び更新

3館) パスファインダーの作成(継続)、国会図書館レファレンス協同データベース提供(継続)

【平成27年度 進捗・成果】

3館) 国立国会図書館レファレンス協同データベース提供 95件

レファレンス事例は、データベース登録に適した事例を選定し、同様事例の調査にも利用しやすいように調査過程などの補足や加工をして事例登録した。

※国立国会図書館レファレンス協同データベース

国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築する調べ物のための検索サービス。参加館の質問・回答サービスの事例、調べ方、コレクション情報など調査に役立つ情報を公開している。

3館) パスファインダー(調べ方案内)の作成 12件

問合わせの多い調査、社会的な関心が高まっているテーマ及び講座や展示資料と関連したテーマのパスファインダー(調べ方案内)を作成、配布するとともに図書館ホームページへ掲載した。

<内容>

中央) 新規2件(児童書の作家・画家について調べる、官報を調べる)、改訂5件(千葉県の記事を探し、千葉県の「自然災害」について、初心者のための法令の調べ方、教科書の調べ方、雑誌記事・論文を探す)

西部) 新規2件(発達障害について調べる、回想法について調べる)、改訂2件(医療情報について調べる、防災-地震から身を守る)

東部) 新規1件(マレーシアについて調べる)

数 値 項 目	基本数値	目標数値	25年度	26年度	27年度	累計 25-27年度
	24年度	27年度				
K 国立国会図書館のレファレンス協 同データベースへの事例提供件数	件 69	累計 件 210	件 85	件 94	件 95	件 274
L パスファインダー（調べ案内） の作成件数	件 18	累計 件 40	件 20	件 10	件 12	件 42

【重点事業③】 商用データベースの積極的導入

- 効果的且つ効率的な導入方法を検討し、専門的なレファレンスに迅速に対応できるようにする。
- 多くの来館者が操作方法を修得できるよう分かり易く、魅力的なガイダンスを定期開催する。

<年度別>25～28年度 データベースの導入方法の検討

3館）パスファインダーの作成、利用講座の実施（継続）、3館）新規データベースの要求（継続）

【平成27年度 進捗・成果】

データベースに関する利用・活用講座を計5回（中央2回、西部1回、東部2回）開催した。

また、国・民間（有料）等のデータベースを活用した調査相談、来館利用提供を行った。

中央）「くらしに役立つ法律・判例情報講座」（法律に親しむデータベース活用法）7月5日、11人

「データベース活用講座（ヨミダス歴史館活用講座）」8月22日、12人

西部）「ワンポイント図書館活用講座」（講座前に開催）

『医療情報』を調べる（健康・医療情報講座）11月28日、30人

東部）『図書館ナビ』データベース講座

「古い資料、古文書を探してみよう」6月28日、4人

「ビジネス情報を調べよう」1月24日、1人

<民間（有料）データベースの内容（導入状況）>

中央）5種：D1-Law、官報情報検索サービス、日経テレコン21、G-search、ヨミダス歴史館

西部）7種：D1-Law、官報情報検索サービス、日経テレコン21、G-search、聞蔵Ⅱ、医中誌Web、CiNii

東部）5種：D1-Law、官報情報検索サービス、毎日ニュースパック、G-search、ルーラル電子図書館

2 高齢者・障害者サービス等

【重点事業①】 バリアフリー化の推進

○耐震化改修後のリニューアルに向けて、次期システムの更新も視野に入れてワンストップサービスの実現や書庫出納の迅速化等施設面、情報面においてバリアフリー化を推進する。

<年度別>25年度～ 施設検討（基本設計・実施設計）、耐震等改修工事
中央）県立図書館機能の強化に必要な施設・設備の検討（継続）

【平成27年度 進捗・成果】

中央）改修計画事前調査を基に検討を進めた。

【重点事業②】 高齢者サービスの開発

○関係資料や拡大読書器等の提供とともに、講座開催など、シニア向けサービスを検討、実施する。
○県行政関係機関の広報活動と連携した講座・研修事業を検討、実施する。

<年度別>25～26年度 先進事例調査、西部）先進事例調査の分析、課題整理（継続）
27年度 課題と対応策の検討 3館）課題と対応策の検討

【平成27年度 進捗・成果】

中央）「読書支援機器活用講座（全2回）」第1回7月31日、第2回8月21日、延べ41人
内容：音声読書機器や拡大読書器の高齢者サービスへの有効性など

西部）「医療・健康情報コーナー」（西部）の充実（継続）

「生涯現役実現セミナー」12月4日、30人 内容：就労・生きがいづくりに役立つ情報

「困りごと解決講座」1月31日、35人 内容：エンディング・ノートについて

調べ方案内（パスファインダー）「回想法について調べる」作成

東部）「はつらっライフナビ」（東部）の充実（継続）

「はつらっライフ講座 物忘れと認知症」10月10日、41人

内容：旭中央病院医師による講演

【重点事業③】 障害者サービスの充実及び市町村立図書館への普及

○県や市町村の担当課、特別支援学校、関係団体等と連携した広報活動を行う。
○県や市町村の社会福祉協議会などを通して利用者ニーズを把握し、サービスの充実を図る。
○市町村立図書館で事業を行う重要性が理解できるよう研修事業を見直す。

<年度別>26年度 研修事業の見直し、広報事業開始

【平成25年度～】3館）広報計画の作成、【平成25年度～】西部）特別支援学校への訪問読書支援及び事業PR

27年度 新研修プログラムの実施 西部）新研修プログラムの実施（新規）【活字資料テキストデータ化事業】

【平成27年度 進捗・成果】

3館）障害者サービス関係の研修会2回、講座15回開催し、延べ318人が参加した。

西部）・特別支援学校への訪問読書支援実施（西部管内の県立校へ事前調査し希望校7校に訪問）。

・本をデータ化しパソコン等で音声読み上げる「テキストデータサービス」本格実施。

数 値 項 目	基本数値	目標数値	25年度	26年度	27年度	平均
	24年度	27年度				25-27年度
M 録音図書貸出タイトル数及び利用者満足度 (タイトル数) (満足度)	タイトル 10,280	平均 タイトル 10,400	タイトル 10,051	タイトル 11,030	タイトル 11,837	タイトル 10,973
	未調査	平均 以上 70%	% 81.7	% 88.2	% 91.4	% 87.1

<障害者サービス関係研修・講座（実施状況）> 講座 15 回（延べ 267 人）、研修 2 回（延べ 51 人）
中央：講座 6 回（118 人）、西部：講座 7 回（137 人）研修会 2 回（51 人）、東部：講座 2 回（12 人）

中央）「読書支援機器活用講座（全 2 回）」延べ 41 人

第 1 回：音声読書器活用講座 7 月 31 日、21 人、第 2 回：拡大読書器活用講座 8 月 21 日、20 人

「サピエ図書館活用講座」11 月 10 日、20 人

「図書館音訳者養成講座（全 2 回）」1 月 26 日、2 月 9 日、延べ 35 人

「電子書籍活用講座」2 月 12 日、22 人

西部）「障害者のための資料デジタル化講座（全 3 回）」6 月 3 日、17 日、23 日、延べ 43 人

「障害者のための資料デジタル化講座（中級）」10 月 23 日 27 人

「図書館音訳者養成講座（中級）（全 2 回）」11 月 25 日、12 月 2 日 38 人

「障害者のための読書支援機器活用講座」1 月 20 日、29 人（うち特別支援学校教職員 4 人）

「障害者サービス研修会 第 1 回」6 月 26 日、29 人（うち特別支援学校教職員 3 人）

「障害者サービス研修会 第 2 回」11 月 27 日、22 人（うち特別支援学校教職員 2 人）

東部）「図書館音訳者養成講座（全 2 回）」10 月 14 日、11 月 11 日 延べ 12 人

IV 千葉県に関する資料や情報の蓄積、継承

千葉県や県内市町村に関する資料を網羅的に収集・保存し、将来にわたって利用できるようにするとともに、千葉県に関する情報窓口として様々な情報を発信していく。

1 千葉県関係資料の網羅的収集、提供、保存

【重点事業①】 千葉県関係資料の網羅的収集整備、保存

- 網羅的収集ができるよう地域・行政資料等の積極的な収集体制づくりを進める。
- インターネット上の資料を図書館情報システムの中で収集・閲覧できるよう、著作権者の許諾対応など研究していく。
- 資料収集の一環として、県民への県立図書館機能の周知と情報収集を行う。

＜年度別＞25年度～ 県民向け広報活動の検討と実施、26年度 都道府県立図書館の調査中央）チラシ等の作成・配布（継続）、研修会（一般参加）の開催と広報（継続）

【26年度～】3館）東日本大震災及び防災関連資料・情報の収集・提供

【平成27年度 進捗・成果】

中央）東日本大震災及び防災関連資料・情報の収集・提供については、26年度に設置した図書館ホームページの東日本大震災千葉県関連サイトで寄贈依頼を行っている。また、県民に寄贈を呼びかけるチラシや、国立国会図書館と連携・連名の事業の広報チラシなどを製作、配布している。

また、25年度作成「千葉県資料室PRリーフレット」を補完するリーフレット「菜の花ライブラリーをみる」（ようこそ千葉県資料室へ2）を作成した。

＜参考項目＞

「資料受入冊数」は数値目標としていない。

基本項目	基本値	25年度	26年度	27年度	平均
	24年度				25-27年度
○ 千葉県関係資料受入冊数	冊 2,231	冊 2,997	冊 2,601	冊 2,964	冊 2,854

【重点事業②】 千葉県関係資料インターネット情報検索機能の充実

- 県機関で所有している小規模な資料データベースや音声や映像等の資料以外のデータベースについても横断的に検索できるよう研究する。

＜年度別＞27～28年度 情報提供システムの検討

【平成27年度 進捗・成果】

中央）次期システムに向けて、県の機関が県民に公開している資料、情報の有効な活用方法について等の検討を進めた。

【重点事業③】 千葉県関係の情報検索ツールの充実

- 利用者ニーズを把握し、作成件数を増加していく。
- 千葉県関係索引データ遡及入力について検討し、計画的に入力していく。

＜年度別＞26-29年度 千葉日報新聞記事索引入力作業の実施

【26年度～】西部）昭和62年以前の千葉日報記事索引遡及入力試行開始

【平成27年度 進捗・成果】

3館）国立国会図書館レファレンス協同データベースへの事例提供 20件

（中央15件、西部3件、東部2件）

中央）千葉県関係「パスファインダー（調べ案内）」作成2件（千葉県の新聞記事を探す〈改訂〉、千葉県の自然災害について〈改訂〉）

千葉県歴史関係雑誌記事索引入力 728件

西部）千葉日報新聞記事索引入力 6,294件

東部）千葉県歴史関係雑誌記事索引入力 86件（中央図書館と分担）

数 値 項 目	基本数値	目標数値	25年度	26年度	27年度	累計
	24年度	27年度				25-27年度
K' [参考項目] 国立国会図書館のレファレンス協同データベースへの事例提供件数 Ⅲ-1-2の数値項目のうち千葉県関係	件 18	累計 件 —	件 21	件 29	件 20	件 68
L' [参考項目] パスファインダー（調べ案内）の作成件数 Ⅲ-1-2の数値項目のうち千葉県関係	件 2	累計 件 —	件 8	件 1	件 2	件 11
N 千葉県関係索引入力件数	件 6,070	累計 件 20,000	件 8,376	件 9,492	件 7,108	件 24,976

＜レファレンス協同データベースへの千葉県関係事例提供＞

中央）登録15件（「蚊遣りの千葉県での方言」、「市原市に奈良の大仏」等）

西部）登録3件（「谷津干潟」、「下総中野牧、野付村の風俗」「昭和初期の銚子駅周辺の商店」等）

東部）登録2件（「田子の浦と鋸南」、「多古町の小学校の歴史」）

＜千葉県関係パスファインダーの内容＞

中央）作成2件（千葉県の新聞記事を探す〈改訂〉、千葉県の自然災害について〈改訂〉）

【重点事業④】 千葉県関係レファレンスデータベースの構築

○県内図書館のレファレンスデータベースの実態調査を行うとともに、千葉県関係レファレンスデータベースの構築を次期システムに向けて検討する。

<年度別>25年度 中央) 事業内容の検討

26年度 県内図書館実態調査 中央) 新システムに関する県内アンケート調査の実施

27~28年度 情報システムの検討 中央) 次期図書館情報システムの検討(新規)

【平成27年度 進捗・成果】

中央) 平成26年度の県内図書館実態調査と県内アンケート調査の結果を参考に、次期システムに向けてレファレンスデータベースの構築について検討しているところである。

<参考項目>

「レファレンス件数」は数値目標上の参考項目

基本項目	基本値	25年度	26年度	27年度	平均
	24年度				25-27年度
Q 千葉県関係レファレンス件数 〈千葉県資料室(中央)〉	件 1,563	件 1,536	件 1,634	件 1,724	件 1,631

【重点事業⑤】 資料の劣化防止のためのマイクロフィルム化やデジタル化の推進

○明治以降に刊行された資料についても劣化が進んでいるので、保存対策を検討し、計画的にマイクロフィルム化及びデジタル化を計画的に進めていく。

○国立国会図書館デジタル化資料における千葉県関係資料の活用を図る。

<年度別>26年度 著作権処理対応などの調査

中央) デジタル化計画の立案、都道府県立図書館実態調査実施、国立国会図書館の事例調査

27~29年度 マイクロフィルム及びデジタル化

中央) 先進事例を参考にした計画的なデジタル化の実施

【平成27年度 進捗・成果】

中央) 昨年度にデジタル化した「教育要覧」昭和24、28~30年を図書館ホームページにアップした。これまでにデジタル化した「千葉県報」も、加工した後、順次アップしている。また、今年度は「教育要覧」昭和31~32年度や当館刊行資料等をデジタル化委託した。今後、図書館ホームページへのアップに向けた作業に取りかかる予定である。

国立国会図書館のデジタル化資料の活用については、昨年度の都道府県立図書館実態調査の聴取結果を参考に検討中である。

2 関係機関と連携した地域デジタル情報の収集・発信

【重点事業①】 関係機関との連携による利用の拡大

○次期システムに向けて、県行政機関及び博物館等類縁機関と協議し、デジタル情報の共有化を研究していく。

＜年度別＞25～26年度 類縁機関との協議

3館) 関係機関等との連携事業の実施(継続)、県立中央博物館との意見交換会実施(継続)

27～28年度 次期システムの検討 3館) 次期図書館情報システムの検討(新規)

【平成27年度 進捗・成果】 [前出I-1-③]

3館) 連携の在り方について検討(連携事業の実施)

県立中央博物館、県民プラザとの意見交換会を1回開催し、連携事業状況を確認しながら、今後の連携について意見交換を行った。

また、中央博物館が文化庁の補助を得て前年度から開始した「博物館・図書館・公民館との連携による地域文化発信事業」の一環として実施している「もののけ」関連事業への支援・協力を行っている。

＜大学図書館、類縁機関との連携事業＞ [※人数は参加者数を示す(以降同様)]

3館) 県内の大学及び類縁機関と連携し、資料の相互貸借や研修事業を行った。

大学への貸出(677冊)及び借受(28冊)、類縁機関への貸出(215冊)

中央) 中央博物館連携事業 妖怪のおはなし読み聞かせ(会場:中央博物館)7月19日、8月9日、8月30日(各2回)、延べ181人

博図公連携事業 妖怪のおはなし読み聞かせ(会場:千葉そごう)6月13日(2回)、延べ50人

企画展示「教えて!図鑑さん!」関連校外学習セミナー(講師:中央博物館)1月15日、213人

〃

関連講座(講師:中央博物館)1月16日、39人

西部)「サイエンス・カフェ① いきもの編」(講師:中央博物館)8月8日、28人

「自然科学講座『日本の火山活動の特徴』」(講師:中央博物館)10月17日、33人

「サイエンス・カフェ② 科学技術編」(講師:現代産業科学館)10月31日、23人

東部)「歴史講座 妖怪と出会う夏 -千葉の妖怪・江戸の妖怪」(講師:中央博物館)

9月5日、40人

「千葉経済短期大学部との連携研修会」(講師:千葉経済短期大学部)2月26日、26人

V 社会の変化に対応した図書館サービスの推進

情報環境の急激な変化に対応した新しい図書館サービスを推進するとともに、県民に開かれた図書館経営を行うため、利用者への情報提供や広報を積極的に行う。

1 ITを活用したハイブリッド図書館の整備

【重点事業①】 資料のデジタル化や電子書籍によるハイブリッド図書館

○紙媒体の資料、視聴覚資料とともに「資料のデジタル化」を進め、併せて電子書籍サービスを試行しながら県民ニーズに対応した情報提供サービスの充実を図る。

【平成27年度 進捗・成果】

「資料のデジタル化」についてはIV-1-⑤、「電子書籍サービス」についてはV-1-②参照。

【重点事業②】 電子書籍サービス

○民間や国立国会図書館の動向を踏まえ、電子書籍サービスを開始する。
○サービスを施行する中では、市町村立図書館でも開始できるよう調査、検証していく。紙媒体の資料、視聴覚資料とともに「資料のデジタル化」を進め、併せて電子書籍サービスを試行しながら県民ニーズに対応した情報提供サービスの充実を図る。

<年度別>26～28年度 サービスの検証、他県調査

【26年度】中央) 都道府県立図書館実態調査実施

【27年度～】 3館) 次期図書館情報システムの検討(新規)

【平成27年度 進捗・成果】

中央) 館内利用の試行・分析開始

次期図書館情報システムに向けて、館内で提供している電子書籍等(デジタルコンテンツ)のコンテンツの利用検証や利用実態の分析を行った。また、一般社団法人電子出版制作・流通協議会がまとめた『電子図書館・電子書籍貸出サービス 2014 調査報告』等をもとに、今後の電子書籍サービスについて検討した。

その結果、商用の電子書籍の導入よりも千葉県資料のデジタルコンテンツの充実(デジタル化、テキスト付与、索引類の整備等)を優先することが適当と判断した。

<提供コンテンツ>

- ・有斐閣YDC1000 (法律書の古典的名著がインターネットを介して利用可能(有料))
- ・青空文庫 (著作権が消滅又は利用許可された本がインターネットを介して利用可能(無料))
- ・千葉県立図書館ホームページ: 菜の花ライブラリー、図書館資料の検索

<利用実績(平成27年度)>延べ人数1人(利用時間15分)

参考(26年度): 年間19人(利用時間49時間)

2 県民に開かれた図書館経営

【重点事業①】 図書館の広報戦略の強化

○県民ニーズを理解し反映するための定期的調査を行い、年間事業計画をたて、県や市町村とも連携し、県内図書館利用促進を含めた実施事業の広報を継続して行っていく。

＜年度別＞25年度～ 広報計画の作成と実践、利用者アンケート調査実施
 （非来館者対象の県立図書館アンケート調査検討）

3館）年間広報計画作成と実施、館内利用者アンケート調査実施（継続）中央）FM ラジオ放送への参加（継続）

【平成27年度 進捗・成果】

3館）積極的な広報を展開していくため、広報計画の策定を進めた。また、館内利用者アンケート調査（10月27日～11月8日）を3館同時に実施する。（予定）

中央）図書館職員がFM ラジオ番組に出演し、県民の方々に読んでほしい図書を紹介した。平成27年度は一般書や児童書に加え、千葉県に関する資料の紹介も行う。（毎月第2水曜日、NHK千葉放送局FM放送「ひるどき情報ちば」）（予定）

数 値 項 目	基本数値	目標数値	25年度	26年度	27年度	平均 25-27年度
	24年度	27年度				
C 利用者アンケート満足度調査	% 74.3	平均 以上 75%	76.3%	79.5%	78.7%	78.2%

VI 今後の図書館経営・施設整備の方向性

中央図書館を中核に、3館が一体となって機能強化を図るため、組織体制やサービス内容の見直しを行うとともに、老朽化した中央図書館の施設整備をすすめる。

【重点事業①】 地域分担から機能強化へ

- 県民ニーズや時代に対応した図書館サービスを実践するため、組織体制やサービス内容の見直しを行う。
- 県立図書館司書の専門的知識・経験を活かしながら、数値目標と図書館関係の調査実施などを通じて、自己点検と外部評価により、効果的・効率的な図書館経営を進める。
- 3館が収集分担を明確にし、連携して市町村立図書館が収集し難い資料を多く収集・保存し、提供できるようにする。

<年度別>25年度～ 組織体制及びサービス見直し及び県民ニーズの把握、検証

3館) 新組織体制・開館日増の分析(継続)、館内利用者アンケート調査実施(継続)

【平成27年度 進捗・成果】

3館) 各館の特色、利用方法や各種事業等について、館報、庁内HP及び各種マスコミ等を活用した広報活動を行った。

- ・館内利用者アンケート調査結果(10月27日～11月8日実施)によるご意見等を参考に、図書館サービス改善について取組を進めた。

【重点事業②】 中央図書館の施設整備

<年度別>25年度～ 施設検討(基本設計・実施設計)、耐震等改修工事

中央) 県立図書館機能の強化に必要な施設・設備の検討(継続)

【平成27年度 進捗・成果】

3館) 県立図書館の今後の在り方を踏まえ、将来を見据えた施設・設備やサービスの方向性についての見直し作業を行っている。

中央) 改修計画事前調査を基に検討を進めた。書庫狭隘化対策として、館内重複図書の廃棄候補の選定作業を継続して実施し、汚破損本等を含め3,149冊を廃棄した。